

平成21年度事後評価報告書

都道府県名	東京都	市町村名	荒川区	地区名	日暮里駅周辺地区			面積	2.1ha
交付期間	平成18年度～21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	8,429百万円	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	市街地再開発事業							
	提案事業	事業効果分析等							
	当初計画から削除した事業		事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	基幹事業								
	提案事業								
新たに追加した事業		基幹事業							
	提案事業								
交付期間の変更		当初	平成18年度～21年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響					
	変更								

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	商業床面積	m ²	4,500	H14	10,000	H21		10,700	○	あり なし	市街地再開発事業により、商業施設を整備した結果、従前と比較して大幅に増加した。(目標達成率107%)	H22年6月頃
指標2	定住人口	人	180	H14	1,700	H21		1,585	△	あり なし ●	目標値には届かなかったが、目標値の9割以上を達成した。(目標達成率93%)	H22年6月頃
指標3	歩行者数	人/日	4,300	H11	9,800	H21		8,278	△	あり なし ●	住宅供給及び商業・業務の拡大により、測定地点では目標値には届かなかったが、事業地区全体としては大幅に増加した。(目標達成率84%)	H22年6月頃
指標4										あり なし		
指標5										あり なし		

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	業務床面積	m ²	8,500	H14				16,000			市街地再開発事業により、業務床面積についても集積が図られ、従前と比較して業務機能の充実が図られた。	H22年6月頃
その他の数値指標2												
その他の数値指標3												

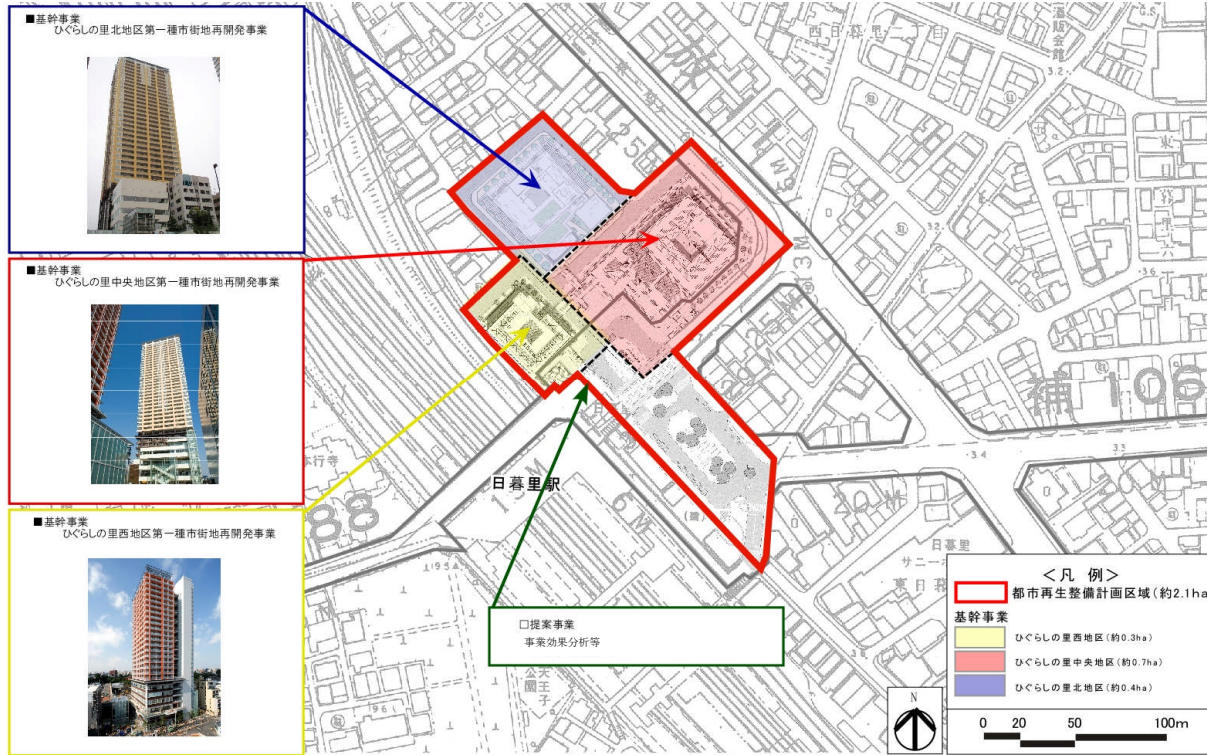
4) 定性的な効果発現状況 市街地再開発事業に併せて建設された地下自転車駐車場により、ゆとりのある安全な歩行者空間が確保され、あわせて好ましい都市景観を形成できた。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
モニタリング			都市再生整備計画に記載し、実施できた		
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
住民参加プロセス	総会、理事会、近隣安全対策協議会の開催		都市再生整備計画に記載し、実施できた		● 今後は管理組合に対して適切な助言をする。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		
持続的なまちづくり体制の構築	3地区連絡協議会の新しい組織への移行に向けた検討		都市再生整備計画に記載し、実施できた		● 今後は3地区連絡協議会の新組織に対して適切な助言をする。
			都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
			都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

地区の概要

日暮里駅周辺地区(東京都荒川区) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 駅前地区にふさわしい土地の有効利用と安心して住み続けられるまちづくりを実現する。 目標1: 土地の合理的かつ健全な高度利用を図る。 目標2: 商業・業務と居住機能の調和のとれた魅力ある都心居住を実現する。 目標3: 利便性・回遊性にも配慮した安全で快適な歩行者空間を創出する。	商業床面積	単位: m ²	4,500	H14	10,000	H21	10,700	H21
	定住人口	単位: 人	180	H14	1,700	H21	1,585	H21
	歩行者数	単位: 人/日	4,300	H11	9,800	H21	8,278	H21
		単位:		H		H		H
		単位:		H		H		H



まちの課題の変化
 ・商業、業務機能の集積が図られ、従前と比較して駅前商業地区としての活気や賑わいを創出した。
 ・従前と比較して商業、業務床面積が増加したことにより、地区全体の歩行者数が増加した。
 ・災害に強い施設建築物が建設され、土地の有効利用・高度利用が図られ、安心して住み続けられるまちづくりを実現した。
 ・歩道状空地と一体となった歩道や車道の拡幅、歩行者専用デッキの整備及び併せて実施した地下自転車駐車場の整備により、ゆとりのある安全な歩行者空間の確保とあわせて好ましい都市景観を形成できた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)
 ・今後は更なる賑わいの創出の取り組みとして、ひぐらしの里3地区の連携を強化し、集客力のある商業施設の誘致を指導するとともに、駅前広場を活用したイベント等の実施を促進する。